

「お彼岸」と「あいさつ」の話

校長 松本 雅史

おはようございます。

明日は、秋分の日といってお休みです。秋分の日は、一年のうちで昼と夜の時間が同じになるという日です。



この日は、「先祖を敬い、亡くなった人を偲ぶ」日と定められています。昔から、この日を「お彼岸」と呼んで、日本ではご先祖のお墓参りをする習慣がありました。

昼と夜の時間が同じになる日は、冬から春になる3月にも訪れます。大体3月の20日ごろです。この日は、春分の日といいます。そして、この日も「お彼岸」と呼ばれます。

お彼岸には、あんこでくるんだお餅をいただきます。秋のお彼岸にいただくのは、「おはぎ」といい、春のお彼岸にいただくのは「ぼたもち」といいます。これは、秋は萩の花、春は牡丹の花が、その季節を代表する花であることにちなんでいます。



さて、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。どんなに暑くても、この日を境に涼しくなるし、寒い冬もお彼岸を過ぎると暖かさを感じるようになるという昔からの経験則です。温暖化、異常気象といわれますが、今年もこのお彼岸を境に、少しは秋らしくなってってくれるといいですね。

さて、話はガラッと変わりますが、皆さんは花小金井南中校区のまちづくり宣言を知っていますね。

「あいさつと笑顔でみんなをつなぐ

～心も環境もきれいいまち～」

です。

実は、新学期に入って地域の方々から、八小の子たちから元気な挨拶がなくなった。というとても残念な声が聞かれました。その話を担任の先生から伺ったクラスもあるでし

よう。その中で、真っ先に6年生が、自分たちが模範を示そうと立ち上がってくれました。先週から校門に立って、登校してくるみんなに元気にあいさつをしてくれています。

私たちの目指すのは、

「あいさつと笑顔がみんなをつなぐ
～心も環境もきれいなまち～」



です。

学校という閉じた敷地内での取組にとどまらず、まち全体に挨拶が広がり、みなぎっていくことです。

学校の外で、知っている人、お世話になっている人にこちらから明るくごあいさつをすることが大切です。

「だれかが」でなく、「自分が！」と、

「私が、まちを明るくする！」

「私たちが、まちをかえていく！」

との気持ちで、学校中に、まち中にあいさつの笑顔を広げていきましょう。

これで、今朝のお話を終わります。



次に、給食委員会から、皆さんに大切なアピールがあります。しっかり聴きましょう。